

写真の中の井伊直弼像

中島 賢治

横浜歴史研究会のHPで古書

にまつわるコラムを書かせて頂いています。その第二回に古書の市場で出会った横浜の古写真ついて書いたのですが、その後、古書販売目録に載せるためにいろいろと調べていくうちに写真の一部は金井円・石井光太郎編『神奈川の写真誌へ関東大震災』（有隣堂）に掲載されたものであるという事がわかりました。こういった訳か、その写真が巡り巡って私の手元やって来たようです。そしてコラムにも掲載した「掃部山公園の井伊掃部頭像」の写真も『神奈川の写真誌へ関東大震災』に収められているものの一つでした。

掃部山は明治17年に旧彦根藩士の有志が買い取り井伊家の所有となりました。外国人鉄道技師の官舎が建てられていた事などから当時は「鉄道山」と呼ばれていたそうです。明治42年に横浜開港50年を記念して日米修好通商条

約の立役者である井伊直弼の像が建立され、それ以降井伊直弼の官位「掃部頭」に因んで「掃部山」と呼ばれるようになりました。その後大正3年に井伊家が横浜市に土地一帯を寄贈し公園として一般に公開されました。

コラムの中で「現在でも存在する掃部山公園の井伊掃部頭像や伊勢山皇大神宮が写ったものもあります。そんな写真も現在見ることも出るものとはどこかしら違った様子があります。」と書きました。奈川の写真誌へ『関東大震災』を読んで、現在立っている井伊直弼像と古写真に写っている井伊直弼像は別物であることを知りました。不勉強で申し訳ありません！井伊直弼像は明治42年の建立から様々な変遷を経て現在に至りま

す。大正12年9月1日関東大震災が起きます。当時の神奈川県内の被災状況に関しては前出の『神奈川の写真誌へ関東大震災』に詳細が記されています。横浜も甚大な被害を受けましたが井伊直弼像に破損等はありませんでした。しかし地震の振動で像の向きが本

来より25度変わってしまいます。

そして火災で像の周りの桜などの樹木も焼失してしまいました。一時周囲は救護地となりバラックが建てられていたそうです。私の手元にある古写真は震災後昭和の頭にかけてのもの様です。（震災前の井伊直弼像の画像は『神奈川の写真誌へ大正』に掲載されています。その後昭和2年に公園は復興し震災で変わってしまった像の向きも戻されますが、間もなく昭和戦時下の徹底した金属回収で昭和18年に井伊直弼像は掃部山から撤去される事となります。現在見ることが出来る二代目井伊直弼像は昭和29年、開国100年の記念事業として再び建立されたものです。

掃部山公園はいまではお花見スポットや秋の虫の声で横浜の名所として知られていますが、そんな公園のシンボルとして親しまれている井伊直弼銅像ですが関東大震災、第二次世界大戦を経て来た、まさに横浜の歴史の貴重な証言者でした。

【筆者紹介】

平成28年3月入会。当会若手



「現在の井伊直弼像」



「関東大震災後の井伊直弼像」

のエース(31才)。馬車道駅近くに事務所をかまえ、古本屋さんを経営。自ら楽しみながら江戸期の和本や短冊、書簡等々を蒐集・販売されています。目録やインターネットの通信販売が主ですが、定期的開催されている古書即売会にも参加されているとの事、ご興味のある方はご連絡ください。